県立竜ヶ崎第一高等学校自己評価表（定時制）

目指す学校像	多様な就学動機の生徒たちが，学ぶことの意義や喜びを感受・体験できる教育環境の整備に努め，充実した生涯学習の場の形成を図る。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
全学年にわたり落ち着いて学習に取り組める環境が整いつつある。 特に中学校時代に不登校だった生徒がほとんど休まず登校するようになるなど安心・安全な定時制高校になった。 個別面談を定期的に実施したり，教員間での情報交換の機会を多く設けるなど生徒を指導する体制も整った。 小学校高学年から中学校3年生までに習得すべき学力を習得できていない生徒に対し，数年前から「基礎学力補習」を実施することになった。この補習により通常の授業に対する生徒達の意欲がより高まる事を期待したい。	○学習指導の充実に努め，確かな学力の定着を図る。	○授業への積極的な参加を促し基礎的・基本的内容を確実に身に付けさせ，一人一人が楽しく学べるよう学習環境を整える。 ○授業内容や指導法の工夫に努めながら指導スキルの向上に努め，日々の授業を充実させる。	B
	○進路指導を充実させ，希望する進路の実現に努める。	○個別面談を効果的に実施し，個々の生徒の実態を把握し，それぞれの能力・適性に応じた適切な進路指導に努める。特に就職指導・キャリア教育の充実に努める。 ○有効な進路情報の提示や資料の収集・活用に努め，日常のふれあいの中で生徒との良好な人間関係を維持し，自ら進路決定できるよう支援する。 ○教員間の情報の共有化を促進し，組織力・協働力で効果的な進路指導を進める。	A
	○基本的な生活習慣の確立に努め規範意識を培う。	○「凡事徹底」～社会の一員としての自覚を促し，当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成に努める。あいさつの励行，清掃の徹底，規範意識や道徳心の育成により，落ち着いた学校生活づくりに努める。 ○教員間の協働体制の下，教員側の聴く態度を重視し教師と生徒の信頼関係の保持に努める。 ○心の悩み・仕事上の困りごとの把握や問題行動の早期発見・早期解決に努める。	A
	○体育・スポーツ活動を奨励し，心身の陶冶と体力向上に努める。	○体育の授業や学校行事に積極的に参加させ，自ら考え行動する中から運動する楽しさや仲間と味わう喜びを体感させ，より一層の活動意欲を促す。 ○定時制通信制大会での自己の役割を自覚させ，助け合いや協力を通じて仲間意識を持たせ，生徒間の相互理解や相互尊重の心，いわば道徳心を養う。 ○校外活動をとおして社会環境への関心を高め，意欲的に社会貢献できる心豊かな人材の育成に努める。	B

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教科指導		生徒の学習意欲を喚起し，基礎学力の充実・向上に努める。	生徒の実態に即した学習計画の立案と学習指導法の工夫を図る。	A	B	数年前に開始した基礎学力補習を充分に実施できなかった。次年度は綿密な計画を立て実施し，参加者も増やしたい。そのために，基礎学力補習に参加が可能な生徒に対しては，教員側から積極的な声かけをしていきたい。
			学習評価は，観点別学習状況から総合的に評価する。	A		
			基礎学力補習や進学課外に積極的に参加させる。	B		
		欠席，遅刻に対する適正な指導を行う。	積極的な授業参加を促し，欠席，遅刻の過多については厳正に対応する。	B		
		成績不振者に対する適切な指導を行う。	個別面談や家庭との連携を通して，成績不振の原因を把握し，改善策を探る。	B		
教科	国語	基本的な読解力や漢字力を身に付けさせる。	漢字検定などの資格取得を通して個々の生徒に目的意識を持たせる。	A	B	漢検の受検指導を通して，学習へのモチベーションを高めさせた。 プリント学習を取り入れ，学力の差があっても学習に遅れることがないよう工夫した。次年度は上記に加え，表現活動にもより力を入れていきたい。
			様々な文章を読ませることで，読書する習慣を付けさせる。	B		
		主体的な学習態度を身に付けさせる。	生徒の実態を考慮した授業展開を心がけて、意欲を持って学習する態度を養わせる。	B		
	地歴公民	地歴公民の基礎的な素養を身に付けさせる。	教科書の基本的な事項を理解させるために毎時間ノート提出を義務付ける。	A	A	主に協同学習やジグソー法などの手法によるアクティブ・ラーニング型授業を１年を通じて実施した。成果として，前年に比べて成績が低い生徒が減少した。またアンケートでも，講義型授業よりアクティブ・ラーニング型授業の方が記憶が残りやすい，楽しい，などの回答をした生徒の数が多かった。講義型授業による知識の習得と，その定着・活用を図るアクティブ・ラーニング型授業を効果的に組み合わせをはかることが今後の課題である。
		現代社会の諸問題に関心を持たせる。	社会の事象について，資料に基づいて多角的に分析して，自分の意見を表現できるようにする。	A		
		地理的な見方・考え方を養う。	地図や統計を活用して地理的事象を追究する技能を身につけさせる。	B		
		歴史的思考力を身に付けさせる。	歴史的事象を，資料・年表・地図等と関連させ学習できるよう工夫する。	A		
		資料・史料の活用を身に付けさせる。	資料の活用を通し，発見学習などの要素を取り入れる。	B		
	数学	基礎基本的な内容を身に付けさせる。	小学校・中学校の内容を未消化のままの生徒が多いことを考慮しつつ，将来，社会人として必要な基礎基本と言える数学的内容の修得習熟を図る。	B	B	グループ学習を導入して，生徒同士で話合い考えさせる授業を展開し，自ら進んで学習に取り組む姿勢を強化した。義務教育段階の基礎的な数学力の向上を計画的に図ることが課題である。
		数学のよさに気付かせる。	数学的活動を通し，数学的な見方考え方のよさに気付き，物事を数学的に考えることの興味関心態度の向上を図る。	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教科	理科	基礎学力の向上を図る。	提出物等の確認を計画的に行い，学習内容の定着度や理解度を把握する。	A	B	今年度は主体的・協働的に学ぶ学習として主にグループワークを取り入れた。次年度は，それをさらに工夫・発展させ生徒達により適したものにしていきたい。
			学習内容を精選し，基礎的で科学的な語彙力の習得を向上させる。	B		
			生徒の学習意欲を常に喚起するような魅力的な授業展開と実験の充実を図る。	B		
		理科が分かる喜びを実感する授業への改善に努める。	デジタル教材の活用を図り，より理解しやすい授業の工夫を目指す。	A		
			身近な話題を取り上げ，実生活と教科書の内容とのつながりを強化する。	A		
	保健体育	スポーツ活動の意義の理解を深めさせる。	運動の楽しさや喜びが深まるよう努める。	B	B	生徒の個に応じて，積極的に参加させ，体力の向上に努めていきたい。
		心身の健康についての理解を深めさせる。	技能の習得段階に即した，個に応じた指導を取り入れ，授業を展開する。	B		
		安全や健康についての理解を図る。	安全教育や健康教育を推し進めて理解を深める。	B		
	芸術	基本的な技法を習得させる。	個々の能力・学習到達度に応じた指導を取り入れ，授業を展開する。	A	A	各自の能力を把握しつつ，より意欲的に取り組めるよう努めていきたい。
		完成させる力を身に付けさせる。	幅広い教材を取り入れ，興味・関心を引きだすよう努める。	A		
	外国語（英語）	英語に慣れさせる。	基本的な語彙や文法を理解させる。	B	B	授業態度は全学年を通じておおむね良好である。ただし，知識の定着に関しては，繰り返し学習にもかかわらず，多くの生徒が不十分なまま終わった。
		英語がわかる喜びを味わわせる。	語彙や文法の理解から短文の理解につなげていく。	B		
		異文化に興味を持たせる。	教科書の内容から文化の違いにも目を向けさせる。	A		
	家庭	家庭生活自立能力を身に付けさせる。	自立した生き方を考え「生きる力」を主体的に思考させる。	B	B	家庭と直結している社会の問題や課題を，生徒が自ら考えられる授業を目指したい。
		基本的技法を習得させる。	実習を通し，技能と修得を目標とする。	B		
	情報	情報化社会に生きる方法を学ばせる。	コンピュータに親しみ，生活に必要な情報を的確に収集する方法と伝達方法を学ぶ。	A	B	ＩＴ社会の中で，ＩＴ機器をより安全にかつ効果的に利用できるようにしていきたい。
			生徒一人一人の創作意欲を高めるような教材提示の工夫を行い，表現力の向上を図る。	B		
			情報機器等を使った実習を通して，身の回りの様々な問題解決方法を学ぶ。	B		
教務		授業時間の確保に努める。	年休・出張の際の授業の振替を確実に行う。	A	B	急な年休の際の授業の振替について，確実に対応できるよう工夫をする必要がある。各科目の自習課題をあらかじめストックしておく等の体制を整備し対応できるようにしたい。また，授業規律の確立も次年度への課題である。
			急な年休に対応できるよう，各科目の自習課題を常にストックする。	B		
			教科・科目の授業時間のバランスを図り，学校行事などの調整を図る。	B		
		進級率100％を目指す。	個に応じたきめ細かな指導を行う。	B		
		授業規律を確立する。	分かる授業の展開。観点別評価規準の明確化。学ぶ姿勢を教える。	B		
		校内研修の充実を図る。	研究授業の実施。気になる生徒の指導についての共通理解を図る。	B		
		生徒の実態に合わせた教育課程を研究する。	生徒・教員による教育課程の評価を点検し，改善すべき点を見いだす。	B		
		教育活動の公表に努める。	積極的に中学校訪問を実施する。定時制専用の学校案内を作成する。毎月のＨＰ更新を目指す。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
特別活動	各種の学校行事を通して帰属意識・連帯意識・協調性・責任感を養うことで，社会性の向上を図る。	生徒が学校生活を楽しみ，帰属意識・連帯意識が高まる学校行事を行う。	B	B	生徒会活動を活発化させ，月に複数回の話し合いがもたれるようになった。学校行事も生徒のアイディアが反映されるなど，生徒が主体的に参加できるようになってきた。次年度はこの流れをさらに進めていきたい。
		生徒会行事を精選し，企画や運営に生徒がより主体的に参加できるようにする。	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	欠席・遅刻等の多い生徒や生活の乱れの目立つ生徒について家庭との連絡を密にし，その状況把握に努め，生徒一人一人に応じた適切な指導を行う。	B	A	落ち着いて学校生活を送ることが出来るようになった。担任との連携・協力により、さらに規範意識を高めていきたい。
	高校生・社会人としてふさわしい言動や社会規範を身に付けさせる。	日々の学校生活の中で，場面場面に応じた効果的な指導に努め，定時制における落ち着いた学校生活の環境整備を図る。	A		
	迅速な情報収集と的確な対応に努める。	定例職員打合せを通して全職員が生徒の動向を把握，共有することによって，問題の早期発見と早期指導に努める。	B		
	教育相談の充実	カウンセリングを通して，心の教育の充実を図る。	A	A	教育相談は心に問題を抱えている生徒の支援に生かされている。
進路指導	個々の生徒の能力・適性に応じた進路指導に努める。	進路セミナーの実施などの他，進路別・個別的な進路相談を計画的・継続的に行い，生徒の主体的な進路意識の涵養に努める。	B	B	毎年行っている進路セミナーのほか，労働法について学ぶ労働セミナーを開催し，職への「適応」だけでなく「自衛」の能力を身につけて社会に出て行けることをめざした。また，現代社会の時間を積極的に活用して，厚生労働省発行の「まんが・知って役立つ労働法Ｑ＆Ａ」を使い，現在の労働環境への理解を深めることをはかった。本年度卒業生については，学校推薦を活用した生徒５名全員の内定が決定した。就職指導を含む現在の労働環境全体についてさらに理解を深められるような指導を進めていくことが今後の課題である。
		進路情報の収集と提供に努め，生徒や保護者への啓発を図る。	B		
	進学希望者への対応を図る。	進学希望者の実情を把握し，面談を行って希望が実現できるよう指導してゆく。	A		
	ニートやフリーターにならぬように指導を強化する。	就職指導を充実させて，目標を持って就職活動ができるよう働きかける。	A		
保健室指導	こころの居場所としての保健室経営と健康相談活動の充実に努める。	生徒が話しやすい環境づくりに努め，個別相談指導を行うなど，多くの生徒が訪問し利用できるよう心の居場所としての充実を図る。	B	B	保健室利用が怠学の場所とならないよう担任と連携して授業に参加できるよう努めた。生徒の心の拠り所として広く保健室利用できるよう配慮し，なおかつ個別相談においては守秘義務を十分に考慮してカウンセラーとも連携し円滑な相談活動を行えた。自己肯定感の低い生徒も多くそれぞれに問題を抱えているため今後も生徒の心の拠り所としての保健室経営を行いたい。また，健康教育においては口腔衛生について保健指導するなど健康的な生活習慣を意識できるよう継続して取り組みたい。
		心の問題を抱える生徒の支援として，健康相談を活用し早期発見、早期対応に努め、必要に応じてスクールカウンセラーへの相談に繋げる。	A		
		保健指導として，感染症，性知識，疾病についての健康教育活動を行い，生徒自ら健康に対しての意識が高められるよう支援を行う。	B		
図　書	本に親しむ習慣を身に付けさせる。	生徒の読書意欲を高められるよう購入図書を精選し，読書環境の整備に努める。	B	B	読書を奨励し，図書を借りやすい環境作りに取り組んだ。次年度はよりいっそう図書の充実に取り組んでいきたい。
第1学年	基本的な学習習慣を付けさせる。	授業に参加することの大切さを理解させ，毎時間目的をもって学習する習慣を付けさせる。	B	B	退学者を出すことだけは避けられたが，様々な問題を抱えている生徒が多いことは事実である。次年度は中だるみ学年であるが，学習に取り組む姿勢はもちろんのこと，欠時数を極力抑え，基本的な生活習慣を確立させるための指導にも積極的に取り組んでいきたい。
	基本的な生活習慣を身に付けさせる。	学校生活における基本的な生活習慣を理解させ，集団生活を通じて規範意識を養わせる。 LHRの時間や学校行事などの機会を通して人間関係を育てていく中で，他者に対する思いやりの気持ちを持たせる。	B		
	高校生活に意欲を持たせる。	様々な理由で学校生活に適応できずにきた生徒達であることに留意し，面談を行いながら生徒理解に努め，各人に応じた目的を持たせて高校生としての生活に意欲を持たせる。	A		
第2学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	定期的・継続的な遅刻・欠席・挨拶・授業態度等に関する指導を行うとともに，将来の就労に向け基礎的な振る舞いに気付かせる。	B	B	基本的な生活習慣については，前半崩れてしまう生徒もいたが，先生方の指導もあり，後半は全員の生活習慣が整った。基礎学力については，漢字や計算の力の向上が見られたものの，進学・就職活動を見越すと，次年度はより向上に力を入れる必要がある。
	基礎学力の向上を図る。	生徒の実態に応じたゆとりある授業編成を計画するとともに，日々の生徒の学習環境・心身の状態に留意し，授業の大切さを強調しながらその出席率の改善を図る。	B		
	不登校や中退者の削減を図る。	個別面談・HR等や他教員との連携を通して生徒理解を深め，生徒との信頼関係を築いたうえで，家庭環境・心身の状態に留意しつつ内面に働きかけ，家庭との連絡を密にしながら指導を行う。	A		

評価項目	具　体　的　目　標	具　体　的　方　策	評　価		次 年 度 へ の 主 な 課 題
第3学年	自己実現を図るために，基礎学力の定着に努める。	自己の目標を明確にさせて，意欲的に授業に臨むことができるように指導する。	B	B	自己実現を図るための基礎学力の定着が不十分な生徒が多いため，希望の進路に進むための学力向上が必要とされる。個々の生徒に応じたきめ細やかな進路目標の設定と指導が今後の課題である。
	卒業後の進路を見据えて，個々の生徒に応じた進路指導を行う。	適宜進路についての面談を行い，進路実現のために情報を提供して，各人が目標を持って学校生活を送れるよう指導する。	B		
	挨拶等礼儀作法の大切さを理解させ，身に付けさせる。	学校生活の様々な場面や面接指導などを通して指導してゆき，社会で必要とされるマナーを身に付けさせる。	B		
第4学年	高校生活最後の学年にふさわしく目標・目的を持ったハリのある生活を送らせる。	あらゆる機会にできるだけ個別指導を行う。また，保護者との連携を密にする。機会を見つけて面談を行い，卒業に向けて目標を持った学校生活が送れるよう指導する。	B	B	進路決定に関しては，生徒と複数にわたって面談や指導を重ねた。学校推薦を希望する生徒は５名全員が就職内定し，自己開拓の生徒についても，就業環境を相談してどうするのが一番良いか複数にわたって話し合うなどの指導を行った。進路未決定の生徒に関しては，保護者の来校を願って卒業後のことも踏まえた相談を行った。生徒一人ひとりの状況を理解して，個の状況を学校全体で把握した上で，進路についての方向を全体で探っていけるようになることが今後の課題である。
	進路指導の充実を図る。	各種進路情報を収集し，そのつど生徒に提供する他，面接指導など，希望進路実現に向けた取組を実施する。	A		
	実社会に適応できる習慣や能力の向上を図る。	あいさつやマナー，協同作業を通じて課題を達成する能力など，卒業後社会人として必要な習慣や能力の向上を図る。	B		

※評価基準：A＝良好　B＝普通　C＝不十分(問題あり)